

越後みしま竹あかり街道

Echigo-mishima takeakari-kaido (Bamboo-lantern festival)

上野 裕治
UENO Yuji

キーワード：竹灯ろう、ライトアップ、コミュニティー・デザイン、地域おこし

Keywords : Bamboo-Lantern, Light-Up, Community Design, Community Development

"Echigo-Mishima Takeakari-Kaido," is a bamboo-lantern festival that is carried out by the community development and community design organization on the old-street in the Mishima district of Nagaoka City. This project took four months of cutting bamboo poles to produce the lanterns for a four-hour display on the night of October 22nd.

This project was managed by the Mishima Light-Up Committee, supported by NID professor Yuji Ueno and the student group for the light design and lighting presentation. Over 300 bamboo trees were used to produce the lanterns and 24,000 candles were installed for the lighting.



中川酒造横広場 Open space beside Nakagawa syuzou





浄福寺 Jyofukuji temple



あんどん Lantern (切絵は切絵作家：小熊美穂子氏による)



にこにこ竹 Niko-niko bamboo



河忠酒造 Kawacyu syuzou

□ はじめに

「越後みしま竹あかり街道」は、2010 年より始まり 2011 年が 2 回目である。それ以前 2008 年は夏の三島祭りの一環として、また 2009 年は竹あかり街道の一会場ともなった日出神社を会場として、竹灯ろうの展示が行われ、その制作、展示を長岡造形大学上野研究室がサポートしてきた。

本報告は、以上のような経緯を経て 2010 年に実施した「越後みしま竹あかり街道」のデザインおよび制作概要を報告するものである。

1. 作業体制

作業体制としては、三島側が地元有志のグループ「三島ライトアップ実行委員会」が中心となって全体の企画・運営を行い、長岡造形大学は建築・環境デザイン学科上野研究室が中心となって学生及び工房職員がデザイン、制作、設置を中心に担当した。また 2009 年度からは、新しいカリキュラムである「地域共創演習」授業の一プログラムとして設定され単位取得の対象ともなり、2010 年は全学で 6 名の学生が参加した。その他の学生についてはボランティア参加であるが、上野研究室 4 年生が全体の作業を取り仕切る体制とし、授業扱いの学生と合わせて約 30 名が参加した。

2. 工程

10 月 22 日の実施日に向けて、概略以下のような工程で作業を進めた。

7/1 初回打合せ、スケジュール調整など

7/29 ポスター、フライヤー版下完成

9/12 最終デザイン検討会議

9/17,18 竹伐採

9/19 ～ 竹灯ろう制作開始

10/16 竹灯ろうを現場へ搬入

10/17 現場設営開始

10/22 「竹あかり街道」本番

10/23 撤収

以上のように約 4 ヶ月の作業となり、4 時間の本番へ向けて綿密な工程管理と材料の数量管理が求められた。

3. 竹灯ろうの照明としての特徴

一般的には照明デザインは、光源、器具、配置、照明する対象の 4 つに区分することができるが、竹灯ろうは次のように位置づけることができる。

- 光源のデザイン：各種電球、LED などの光源の選定あるいは色温度の設定。竹灯ろうはロウソクが光源。
- 照明器具のデザイン：ランプシェード、照明ハウジングなど。竹灯ろうは竹の加工のみで制作。
- 照明配置のデザイン：建築インテリアでいえば天井・伏図での照明器具配置、ランドスケープでは街灯の配置など。竹灯ろうではその配置が重要。
- 何をどう照明するかというデザイン：照明により何をどのように演出するか。ロウソクは光源が弱いいため、比較的デザインに占める比重は小さい。

このように、竹灯ろうのデザインは小さなロウソクの明かりを光源として、竹という一つの素材を使ったハウジングによる、極めてシンプルな照明デザインであることができ、竹のハウジングそのもののデザインとその配置や組み合わせがデザイン上のポイントとなる。

4. 全体計画

「越後みしま竹あかり街道」会場は、旧三島町市街地の最西端を通る旧街道本町通り、延長約 800m が対象となる。その間に二つの寺（浄福寺、長照寺）、一つの神社（日出神社）、歴史ある二つの酒蔵（中川酒造、河忠酒造）などがあり、これらの寺社境内、酒蔵周辺やいくつかの空き地が竹灯ろう設置の中心的な空間となった。また LED 投光器照明を部分的に組み合わせることにより、町並や竹林のライトアップ全体としての奥行き感のある光景観の創出を図った。

5. 地域おこしとしての効果

現在の長岡市において、合併後の各地域のまちづくりやコミュニティの強化といった課題は大きい。これはまた全国の地方都市がかかえる課題でもある。本ケースの三島地区脇野町においても、祭りの衰退、人口の減少などの課題があるものの、寺社や酒蔵など町並としての資源は残っており、本プロジェクトが町の活性化にきっかけになりつつある。また、地元実行委員会の多大な努力や町内会、中学校の協力、地元切り絵教室作品を活用したあんどん制作など、この数年で大きな盛り上がりを見せてきた。このように、「竹あかり街道」は一日限りの一つのイベントであるが、これをきっかけとしてコミュニティの活性化や町並への関心の向上といった面で、大きな効果が上がっている。また 3 つの寺社ではそれぞれ地元のプレーヤーを中心としたピアノ、弦楽、琴などの和楽器、詩の朗読、紙芝居といった多様なステージ・パフォーマンスも開催され、それぞれ多くの観客を魅了していた。これらの活動も地域の盛り上げに大きく貢献している。

地域コミュニティと大学とのコラボレーションとして、地域活性化の実例として、また何よりも美しいイベントとして、私たちは今後も展開・発展させていく所存である。

□ 諸元

開催日時：2011 年 10 月 22 日

16:00 より点灯式

21:30 消灯

場所：新潟県長岡市脇野町本町通り（旧三島町）約 800 m の沿道及びその周辺

主催：三島ライトアップ実行委員会

共催：長岡造形大学、長岡市、脇野町地区会

竹灯ろうデザイン：長岡造形大学上野研究室

LED 照明デザイン：山下匡紀（地域交流センター）

あんどん切絵制作：小熊美穂子（切絵作家）

長岡造形大学参加スタッフ：

工房職員：廣田真治、三井創史

4 年：中間雄貴、川村千絵、宮澤桃子、斉藤 誠

（以上、コア・メンバー）

長谷川豊、永井卓、俵山菜々子、長倉明子、菊池香奈子

3 年：小池朋博、古源悠大、中村 薫、名塚洸太郎

2 年：上野 綾、本山侑弥、大淵 歩、河井未来、井口恵美

（以上の 2 年生 5 名は地域共創演習参加メンバー）

石塚多恵、猪股莉乃、高橋真美、金澤 遥

使用した竹の数：モウソウ竹 約 400 本

使用したロウソクの数：24,000 個

LED 投光器：54 台